

2023年9月期 第3四半期 決算説明資料

2023年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証スタンダード市場 : 8789)

<https://www.fgi.co.jp/>

総括	2
連結業績概況	3
連結業績予想の修正	4
四半期連結業績推移	5
セグメント別業績	6
投資銀行事業	8
公共コンサルティング事業	11
エンタテインメント・サービス事業	12
連結財務諸表	15
連結経営指標等の推移	17
会社概要	18

**「事業承継ソリューション業務受託」及びそれに付帯する「プライベートエクイティ（PE）投資」は全国に拡大し、増収増益。
通期業績予想は、上記事業の好調とRBJ株式売却益等により、
7月13日付で親会社株主に帰属する当期純利益を50%上方に修正。**

事業承継ソリューション業務受託が好調を維持

- ・事業承継問題を抱える企業に、財務アドバイザーやアセットマネジメントなどを提供する事業承継ソリューション業務受託が好調を維持。
- ・当第3四半期(2023年4月-6月)も優先交渉権を取得するなど、新規案件組成のための活動が順調に進む。

PE投資の回収により、7億円*の売上高・利益を計上

- ・第2四半期に投資先のファンドで売却契約締結に至っていた案件を、当第3四半期に収益認識。他の案件も投資回収に至り、合計で7億円*を売上高、営業利益に計上。
(*アセットマネジメントの成功報酬等を含む)

預り資産残高は、前期末比48.7%増加 835億円に

- ・海外機関投資家によるレジデンス向け投資のアセットマネジメントが増加。

(株)ムーミン物語の財務基盤立て直しに目途を立て、ムーミン関連事業を再整備

- ・ムーミン物語は、当社貸付債権5億円のDES、(株)ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）株式譲渡（同社単体で売却益671百万円）により、債務超過を解消すると同時に現金を確保。
- ・ムーミン物語とムーミンバレーパークの不動産を保有するSPCの借入金返済等に関する見直しに関し、取引金融機関と関係整備。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2022年9月期 第3四半期累計	2023年9月期 第3四半期累計	増減額	増減率
売上高	6,749	6,911	+161	+2.4%
売上総利益	2,680	3,839	+1,158	+43.2%
営業利益	150	1,142	+992	+661.0%
経常利益	114	1,084	+970	+851.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△140	781	+922	—
償却前営業利益	575	1,492	+916	+159.1%

・償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

事業承継ソリューション業務受託とそれに付帯するPE投資の回収による収益が大幅に増加。

航空機AMも伸びる。

ムーミンライセンス事業を行うRBJが連結除外となるも、増収。

売上総利益

粗利率が高い事業承継ソリューション業務受託等の売上増加により大幅に増加。

営業利益

販管費は、事業拡大に伴い前年同期比6.5%増となるも、売上総利益の増加により、営業損益以下の各段階利益は大幅に増加。

連結業績予想の修正

(2023年7月13日公表)

(単位：百万円)

	2023年9月期 期初予想	2023年9月期 修正予想	増減額	増減率	(参考) 前期実績
売上高	10,100	9,500	△ 600	△ 5.9%	9,301
営業利益	1,400	1,400	—	—	587
経常利益	1,400	1,400	—	—	540
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	1,500	+500	+50.0%	176

売上高は期初予想を下回るが、営業利益・経常利益は修正せず。

親会社株主に帰属する当期純利益は、RBJ株式売却益等の特別利益により上方修正。

売上高

事業承継ソリューション業務受託等による売上高が期初の想定を上回る見込みとなるが、不動産小口化商品の販売の進捗と不動産開発案件の販売開始時期の遅れにより、売上高は期初予想を下回る見込みとなる。

営業利益 経常利益

売上高は期初予想を下回るものの、利益率の高い事業承継ソリューション業務受託等が好調のため、営業利益、経常利益の修正はなし。

親会社株主に帰属する 当期純利益

第4四半期に計上するRBJ株式売却による関係会社株式売却益386百万円、及び(株)トリニティジャパンの連結子会社に伴う負ののれん発生益190百万円により、期初予想を上回る見込みとなる。

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

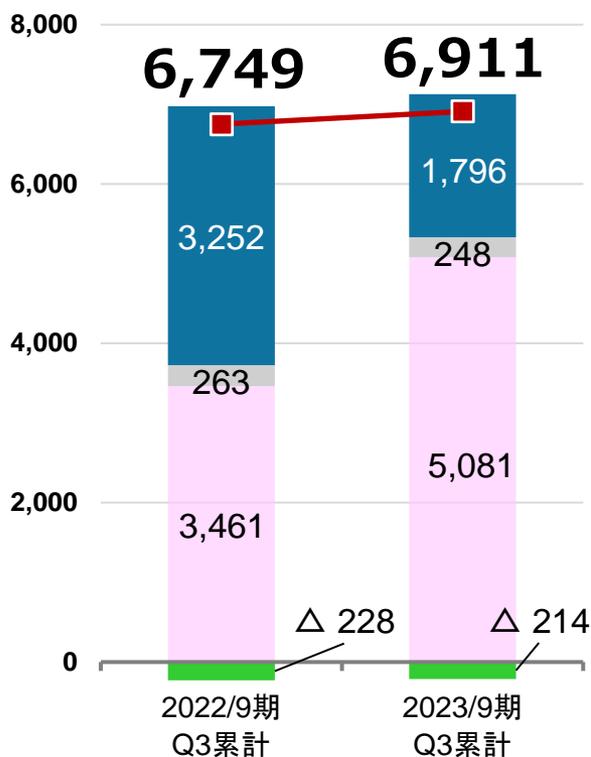
	2022/9期						2023/9期				前Q3比 増減額 (増減率)	前Q3累計比 増減額 (増減率)
	Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
売上高	2,272	2,148	2,328	6,749	2,552	9,301	2,716	1,814	2,380	6,911	52 (2.2%)	161 (2.4%)
売上総利益	897	712	1,071	2,680	1,309	3,990	1,597	783	1,457	3,839	386 (36.1%)	1,158 (43.2%)
営業利益	62	△102	190	150	437	587	720	△74	496	1,142	306 (161.4%)	992 (661.0%)
経常利益	39	△91	165	114	426	540	699	△71	456	1,084	290 (175.1%)	970 (851.1%)
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△47	△155	62	△140	316	176	503	△25	304	781	242 (388.8%)	922 —
償却前営業利益	213	49	313	575	577	1,153	836	44	612	1,492	298 (95.4%)	916 (159.1%)

・償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

セグメント別業績 - 2

売上高

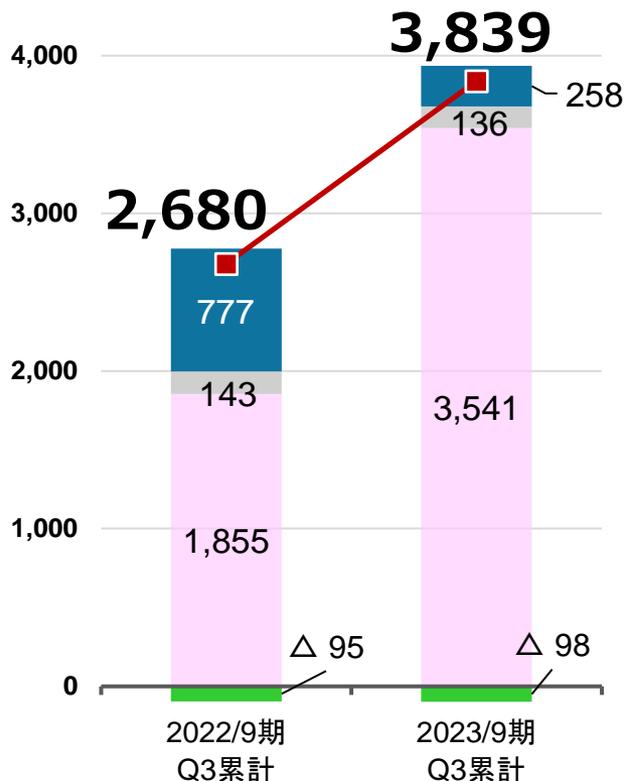
(百万円)



161百万円増 (2.4%増)

売上総利益

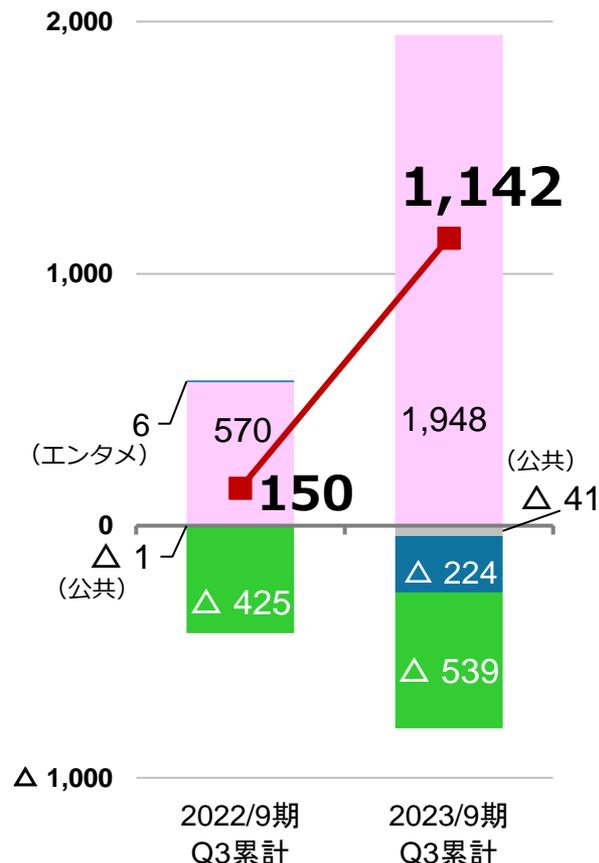
(百万円)



1,158百万円増 (43.2%増)

営業利益

(百万円)



992百万円増 (661.0%増)

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。



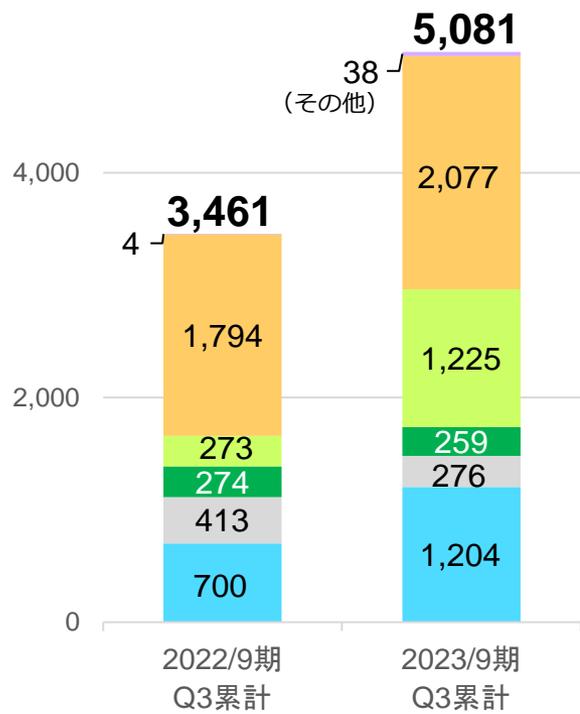
投資銀行事業—業務別売上高、売上総利益

事業承継ソリューション業務受託とPE投資の回収による収益が増加し、大幅増収。航空機AMの好調も続く。

- 業務受託、PE投資** 案件組成が好調に推移し、PE投資の新規実行が増加。組成した投資案件の売却も順調に進む。この結果、組成ファンドの資産マネジメント受託によるアップフロントフィーや期中管理報酬、成功報酬等の業務受託収益、並びに投資回収による投資収益が増加。
- 航空機AM** コロナ禍の沈静化により、機体検査や機体返還などの技術サービスは減速するが高水準の売上を維持。航空機登録サービスの増加や、航空機リマーケティングなど新たな取り組みにより増収増益。

(百万円)

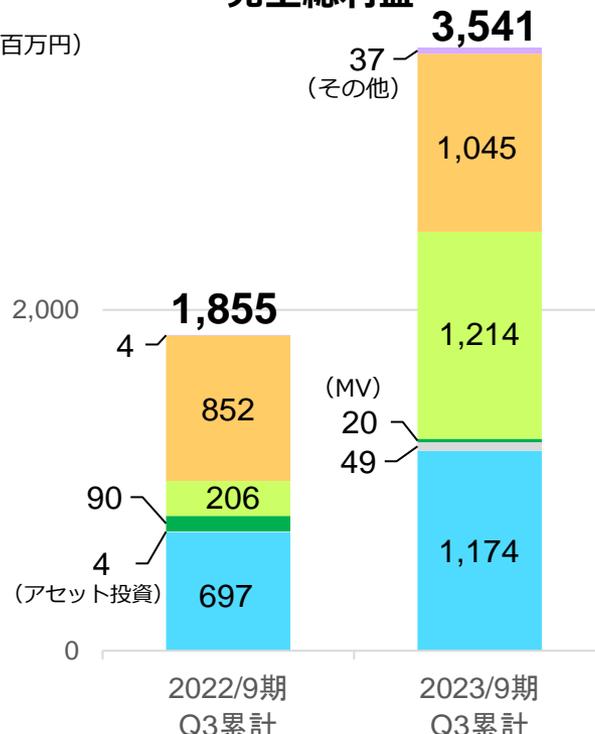
売上高



1,620百万円増 (46.8%増)

(百万円)

売上総利益



1,686百万円増 (90.9%増)

- その他
- 航空機アセットマネジメント
- プライベートエクイティ投資 (PE投資)
- メツツアビレッジ (MV)
- アセット投資
- 業務受託 (アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等)

(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

投融資残高

投融資残高は2023年3月末比9.3%減の78億円となる。

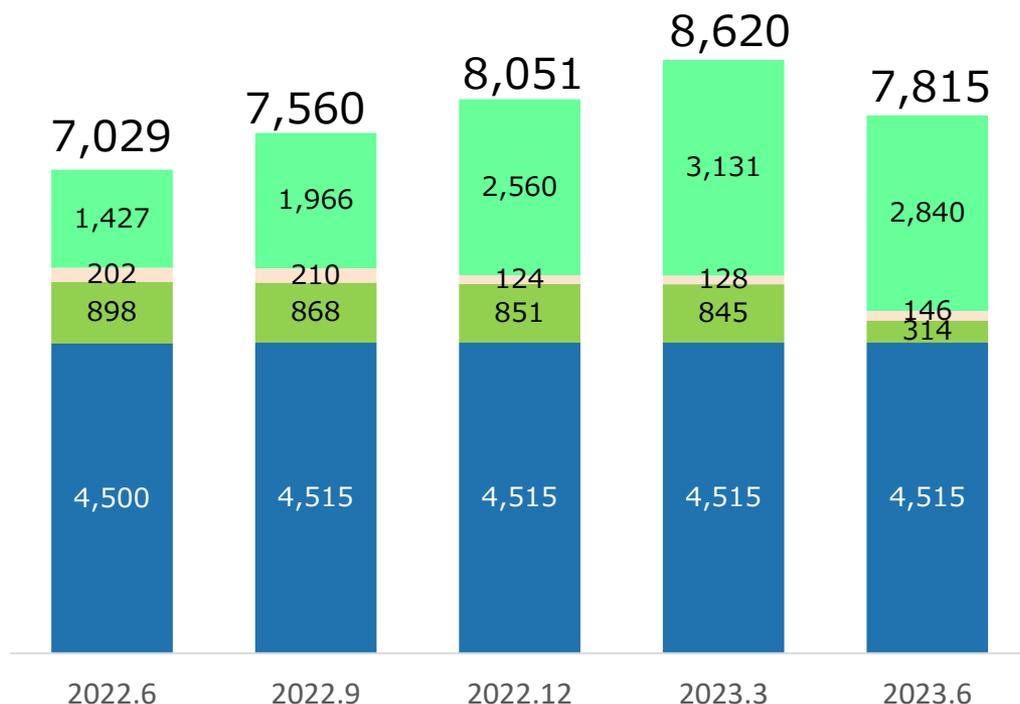
〔2023年9月期第3四半期の変動要因〕

- ・ PE投資の回収があったことにより、プリンシパルインベストメントが減少。
- ・ (株)ムーミン物語への貸付債権5億円をデット・エクイティ・スワップにより株式化。企業融資が減少。

- (注) 1 投融資残高は当社、aviner(株)の合計
2 FGI、aviner(株)間の出資・貸付は、含めず。

投融資残高（子会社への出資を含む）

(百万円)

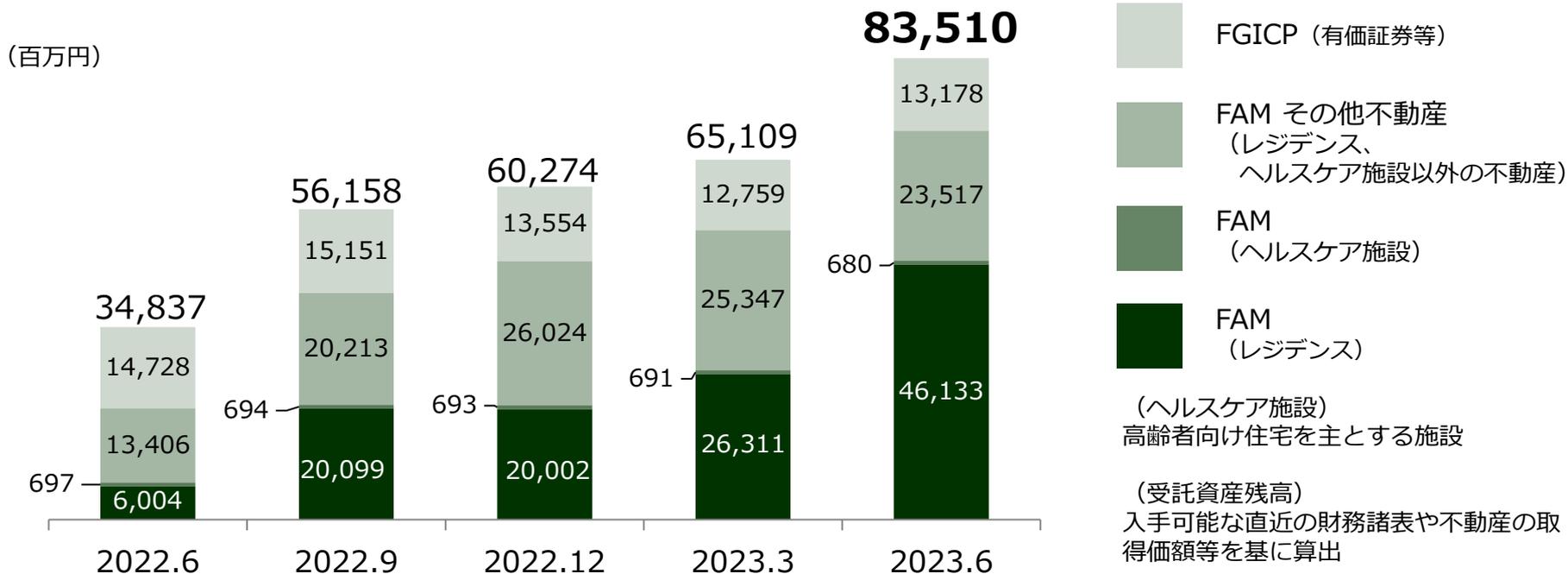


- プリンシパルインベストメント**
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。
- ベンチャーキャピタルファンド**
2ファンドへの投資
- 企業融資**
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。
- 不動産等(メッツア)**
メッツアにおける不動産。メッツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

預り資産残高

海外機関投資家によるレジデンス向け投資のアセットマネジメントが増加。
 預り資産残高は、前期末比48.7%増の**835億円**に。

- ・上記の残高は、FAMの投資運用・投資助言とFGICPの投資運用における契約資産の合計です。
 またFGICPの投資助言契約における顧客の資産額は、1,051億円（前期末比133億円増）となっています。
 （顧客の資産は、主に太陽光発電システム）
- ・FAMが長岡市の市街地再開発事業において、アセットマネジメントを受託して不動産証券化スキームを構築。
 2023年6月、組成した特別目的会社が地域金融機関3行からのシンジケートローンにより資金調達し、物件を取得。



フィンテックアセットマネジメント(株) (FAM)

投資運用業、投資助言・代理業（関東財務局長（金商）第2014号）
 総合不動産投資顧問業（総合一第74号）
 不動産特定共同事業（金融庁長官・国土交通大臣第54号）

FGIキャピタル・パートナーズ(株) (FGICP)

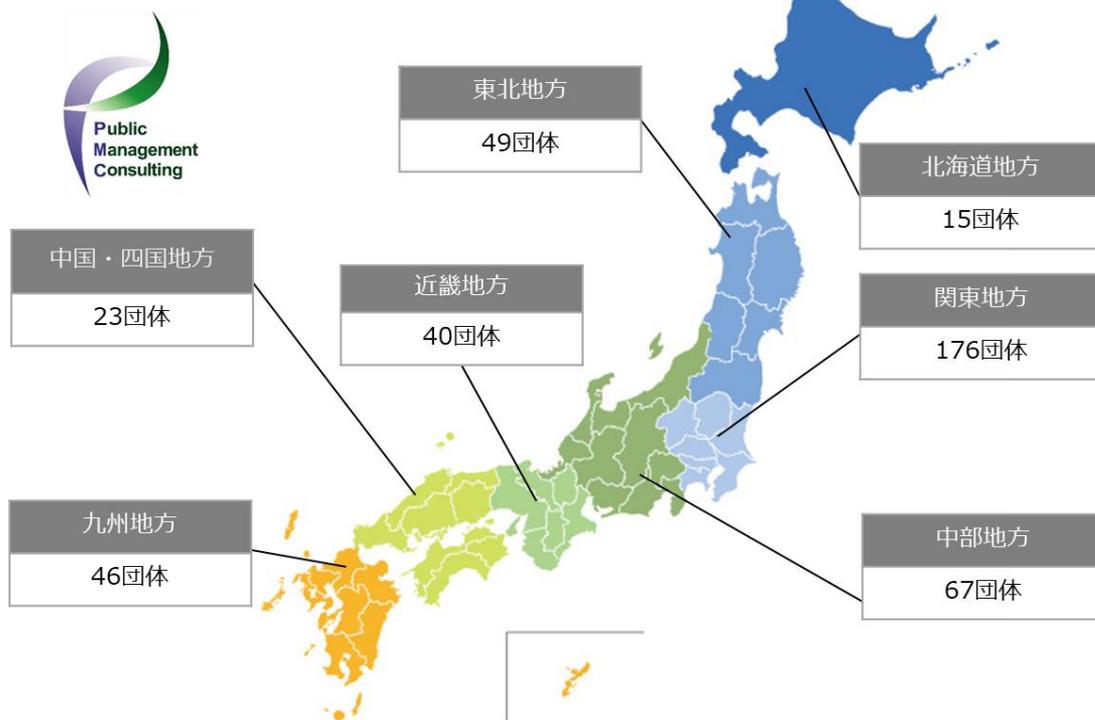
投資運用業、投資助言・代理業
 （関東財務局長（金商）第2175号）

地方公共団体等との累計取引実績は416団体。大規模自治体の財務書類作成支援業務を拡大

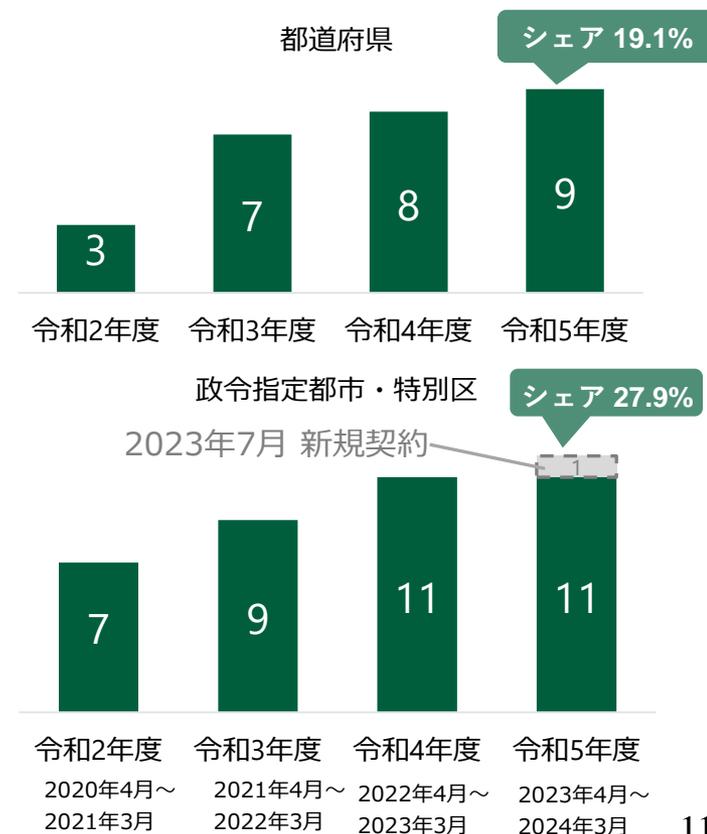
- 公会計を中心に、公共施設等総合管理計画の策定・見直しや公営企業会計の支援、経営・財務コンサルティングなどを行う子会社PMCの地方公共団体等との累計取引実績は416団体（2023年6月末現在）。
- 大量の財務情報を有する大規模自治体から、財務書類作成に関する知見と、情報技術・大量データ処理に専門性を有するPMCへの引き合いが増加。2023年4月開始の令和5年度では、都道府県1団体、政令指定都市・特別区1団体の新規受託が決定（7月契約分を含む）。

地方公共団体等との累計取引実績

(2023年6月末現在)



財務書類作成支援業務 受託団体数

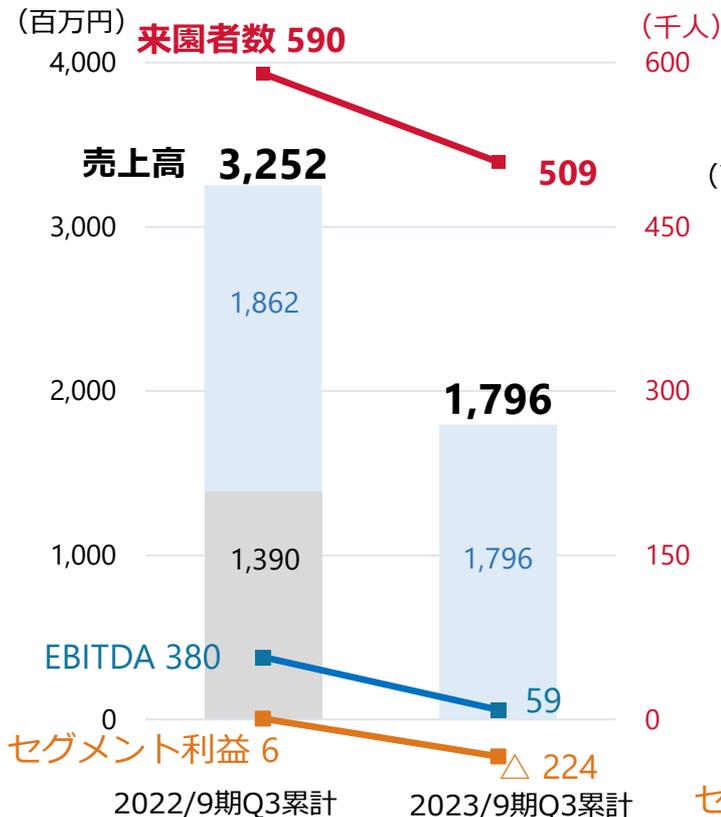
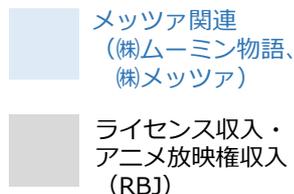


エンタテインメント・サービス事業—業績等

RBJの連結除外により、減収減益。メッツァ来園者数は伸び悩む。

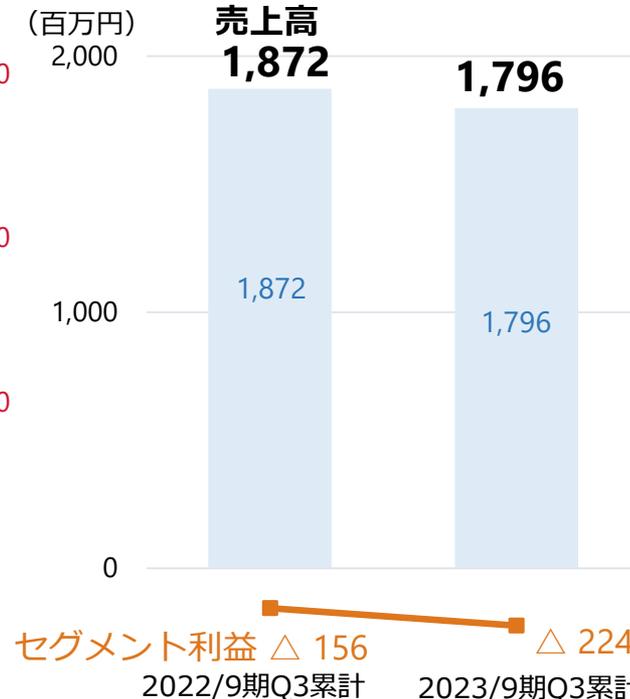
- メッツァ来園者数は前Q3累計比で13.7%減の50万人となるが、ムーミンバレーパークの入園料金を改定したほか物販・飲食の顧客単価が上昇したことにより、メッツァ関連の売上高は3.6%減の1,796百万円に留まる。
- メッツァ関連の固定費は、2021年12月のリニューアルで低減したことにより、前Q3累計比で減少。
- Q1に連結除外（持分法適用関連会社化）した(株)ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）の業績は計上せず、営業外損益において持分法による投資損益として計上。（RBJ株式は2023年7月14日に売却。RBJはQ4は持分法適用の範囲から除外）

売上高



(ご参考)

前四半期にRBJ非連結の場合の業績



(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

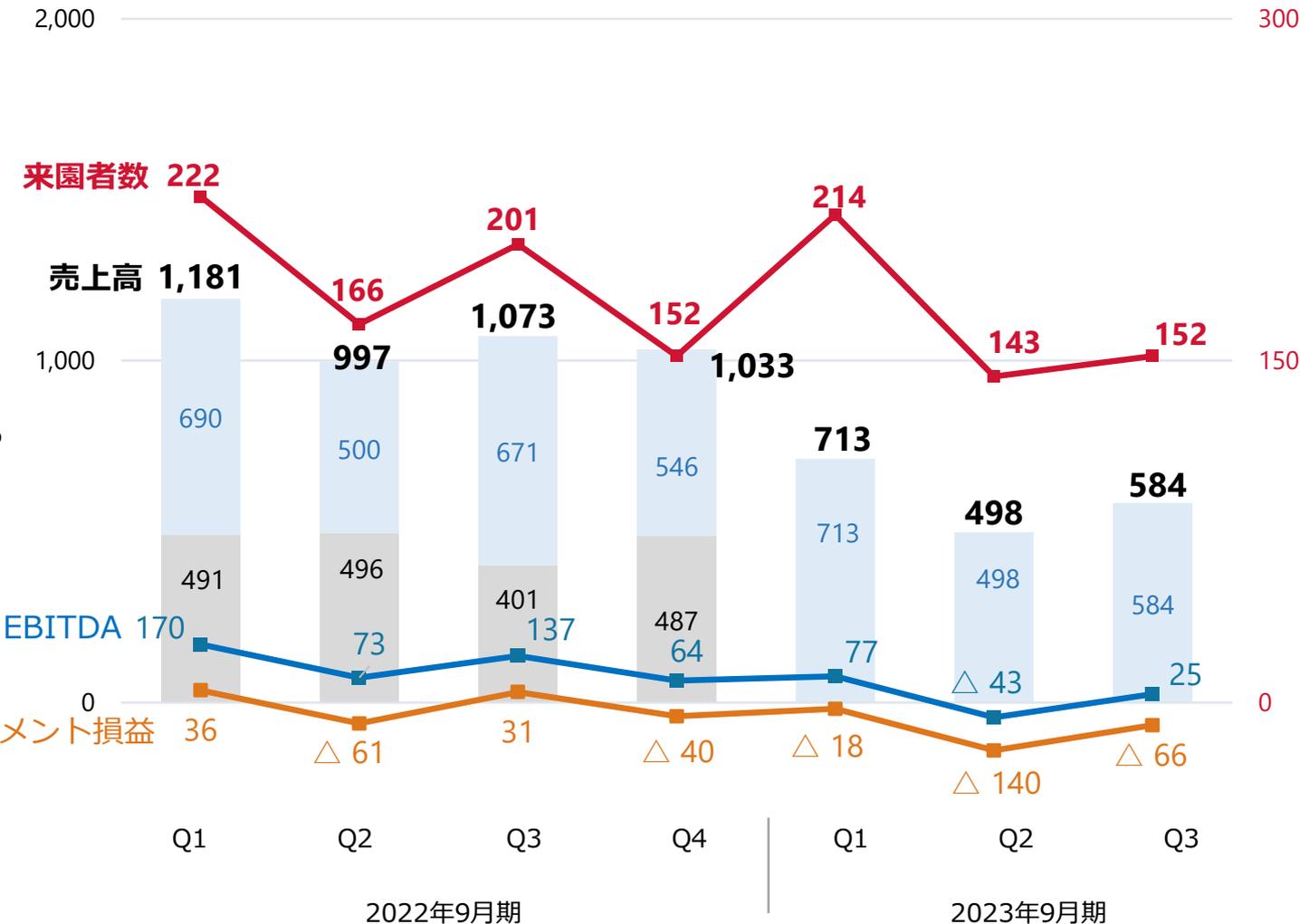
3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

エンタテインメント・サービス事業—業績等（四半期）

(百万円)

(千人)

売上高



(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

(株)ムーミン物語保有のRBJ (持分法適用関連会社) の全株式を(株)松屋に譲渡

- ・第4四半期に関係会社株式売却益を連結で386百万円、ムーミン物語単体で671百万円を計上予定。
- ・ムーミン物語は財務基盤の立て直しに目途を立て、設備投資等の資金を確保。

■ ムーミン物語は、DESとRBJ株式譲渡により債務超過を解消

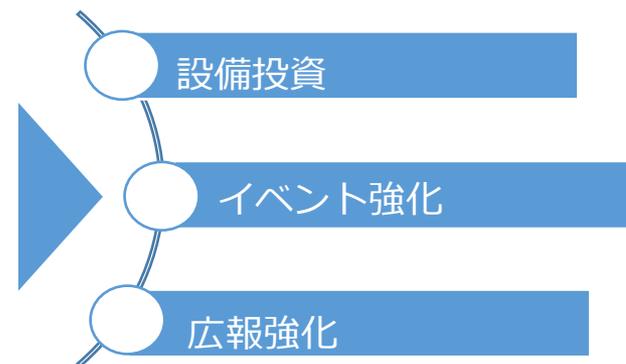
取引金融機関との借入金返済の見直しに関する協議が、合意に向けて前進

- ・当社は、2023年5月にムーミン物語に対する貸付債権5億円をDES (デット・エクイティ・スワップ) により株式化。今後、更に約1.5億円のDESも検討。
ムーミン物語はRBJ株式譲渡による売却益671百万円 (同社単体) により、債務超過を解消。
- ・ムーミンバレーパークの不動産を保有する子会社SPC (飯能地域利活用合同会社) による金融機関借入の返済に向け、ムーミン物語は金融機関との間で、同社がSPCに支払う不動産賃借料の見直しに合意。これにより、当該賃借料を原資とするSPC借入金返済及びムーミン物語の借入金返済の見直しに向けた環境が整い、合意に向けて協議が前進。これらにより、ムーミン物語のキャッシュフロー・損益は大幅に改善する見込み。
(注) 当社はDESなどによりムーミン物語の財務支援を行いますが、ムーミン物語及びSPCの債務保証はしておりません。
- ・ムーミン物語が開業時にセールス&リースバックにより調達したリース残高942百万円は、返済が進み当第3四半期末の残高は212百万円となっており、次期に完済する見込み。

■ 株式譲渡により得られる資金を積極的に投下

- ・ムーミンバレーパークの一層の魅力向上と認知拡大のために、設備投資やイベント・広報強化に活用

RBJ株式譲渡資金



連結貸借対照表

資産の部

	22年9月期	23年9月期 第3四半期	増減
流動資産	11,022,806	11,589,886	567,079
現金及び預金	2,375,927	2,521,120	145,192
1 受取手形・売掛金 ・契約資産	1,113,702	916,782	△ 196,920
2 営業投資有価証券	2,482,469	2,979,250	496,781
営業貸付金	371,665	349,815	△ 21,850
販売用不動産	4,057,167	4,057,167	—
商品	133,602	159,994	26,392
その他	593,045	704,914	111,869
貸倒引当金	△ 104,772	△ 99,157	5,615
固定資産	6,910,204	6,984,151	73,946
3 有形固定資産	5,878,784	5,616,423	△ 262,360
4 無形固定資産	632,501	141,018	△ 491,482
5 投資その他の資産	398,918	1,226,709	827,790
資産合計	17,933,011	18,574,037	641,026

- 1 事業承継ソリューション業務受託による売掛金が増加したものの、RBJの連結除外でライセンス収入の売掛金がなくなったことにより減少。
- 2 新規投資の実行や、PE投資先のファンドが投資回収に至りファンドの価値が向上したことにより増加。
- 3 ムーミンバレーパークの建物、内外装等の減価償却により減少。
- 4 アニメ放映権を保有するRBJの連結除外により減少。
- 5 RBJの連結除外（持分法適用関連会社化）、及び㈱トリニティジャパンの新規連結により増加。
- 6 飯能地域活用合同会社（SPC）の借入52億円を長期借入金から1年内返済予定の長期借入金へ振り替え。（14頁参照。）
- 7 2022年12月開催の定時株主総会決議により、減資、欠損填補を行う。
- 8 ㈱トリニティジャパンの新規連結や、SGIの利益計上があったものの、RBJの連結除外により減少。

負債の部

（単位：千円）

	22年9月期	23年9月期 第3四半期	増減
流動負債	2,587,825	7,784,972	5,197,147
支払手形・買掛金	248,274	224,539	△ 23,734
短期借入金	—	68,354	68,354
6 1年内返済予定の長期借入金	529,252	6,034,647	5,505,395
未払法人税等	133,150	119,039	△ 14,111
リース債務	260,095	202,503	△ 57,592
賞与引当金	191,888	205,129	13,240
その他	1,225,164	930,760	△ 294,403
固定負債	7,502,492	2,111,028	△ 5,391,464
6 長期借入金	7,184,342	1,500,646	△ 5,683,695
リース債務	158,022	62,188	△ 95,834
繰延税金負債	19,737	124,362	104,625
退職給付に係る負債	110,067	125,223	15,155
その他	30,322	298,606	268,283
負債合計	10,090,317	9,896,000	△ 194,316

純資産の部

株主資本	6,524,040	7,320,227	796,186
7 資本金	6,471,266	5,372,574	△ 1,098,692
資本剰余金	4,996,716	974,443	△ 4,022,272
利益剰余金	△ 4,943,941	973,209	5,917,150
自己株式	△ 0	△ 0	—
その他の包括利益累計額	61,839	133,220	71,380
新株予約権	56,359	75,843	19,483
8 非支配株主持分	1,200,454	1,148,746	△ 51,707
純資産合計	7,842,693	8,678,037	835,343
負債純資産合計	17,933,011	18,574,037	641,026

連結損益計算書

(単位：千円)

	2022年9月期 第3四半期累計	売上比	2023年9月期 第3四半期累計	売上比	増減額	増減率
売上高	6,749,519	100.0%	6,911,192	100.0%	161,672	2.4%
売上原価	4,068,821	60.3%	3,072,185	44.5%	△ 996,636	△ 24.5%
売上総利益	2,680,698	39.7%	3,839,006	55.5%	1,158,308	43.2%
販売費及び一般管理費	2,530,517	37.5%	2,696,087	39.0%	165,570	6.5%
営業利益	150,180	2.2%	1,142,918	16.5%	992,738	661.0%
営業外収益	64,410	1.0%	66,271	1.0%	1,861	2.9%
営業外費用	100,573	1.5%	124,718	1.8%	24,145	24.0%
経常利益	114,017	1.7%	1,084,472	15.7%	970,454	851.1%
特別利益	16,478	0.2%	198,394	2.9%	181,916	1,104.0%
特別損失	1,362	0.0%	32,369	0.5%	31,006	2,276.2%
税金等調整前四半期純利益	129,133	1.9%	1,250,497	18.1%	1,121,364	868.4%
法人税等合計	84,537	1.3%	252,153	3.6%	167,615	198.3%
四半期純利益	44,596	0.7%	998,344	14.4%	953,748	2,138.6%
非支配株主に帰属する四半期純利益	185,454	2.7%	216,613	3.1%	31,158	16.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△ 140,857	△ 2.1%	781,731	11.3%	922,589	—

1 (株)ライツ・アンド・ブランズ (RBJ) が連結除外されるも、事業承継ソリューション業務受託と付帯するPE投資、航空機AMの売上高が増加。

2 主にRBJの連結除外により減少。原価率は前年同期から15.8ポイント減の44.5%となる。

3 RBJを連結除外したほかメツアで費用を削減したものの、その他の事業は事業拡大のための人員増強や外部委託が増加したことにより、前年同期比6.5%増。

4 持分法による投資利益33百万円、助成金収入26百万円を計上。

5 (株)トリニティジャパンの連結子会社化に伴う負ののれん発生益190百万円を計上。

連結経営指標等の推移

		2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期	2022年 9月期	2023年9月期 第3四半期累計
売上高	(百万円)	3,689	9,175	6,841	8,107	9,301	6,911
売上総利益	(百万円)	2,261	2,944	2,313	3,370	3,990	3,839
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,072	△ 1,664	△ 992	178	587	1,142
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135	115	540	1,084
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	△ 820	△ 1,586	△ 1,186	130	176	781
純資産	(百万円)	8,551	8,873	7,304	7,439	7,842	8,678
総資産	(百万円)	14,016	19,025	16,583	16,457	17,933	18,574
1株当たり純資産	(円)	39.31	37.03	31.12	31.47	32.72	37.03
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90	0.65	0.88	3.88
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	0.65	0.87	3.87
自己資本比率	(%)	52.2	39.1	37.7	38.5	36.7	40.1
自己資本利益率	(%)	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3	2.1	2.7	-
株価収益率	(倍)	-	-	-	86.1	44.6	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,978	△ 2,604	680	747	△ 701	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,008	△ 4,543	△ 282	△ 173	△ 141	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	5,771	5,710	△ 767	△ 360	802	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	3,847	2,513	2,142	2,379	2,375	-
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	156(47)	167(262)	156(224)	149(209)	176(144)	153(166)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	38(5)	39(5)	28(6)	28(4)	30(4)	26(6)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長 玉井 信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所 スタンダード市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行業務 ②投資業務 ③投資運用業務 ④地域課題ソリューション
発行済株式総数	201,305,200株 (2023年6月30日現在)
単元株式数	100株
資本金	5,372百万円 (2023年6月30日現在)
連結純資産	8,678百万円 (2023年6月30日現在)
連結従業員数	153名 (2023年6月30日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責事項

本資料は、当社およびFGIグループの2023年9月期第3四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。